


スマホ・PCで動画公開

あす全面公開

宮古市の東日本大震災の犠牲者の行動を再現したサイトのデモ動画は、パソコンやスマートフォンで見られます。スマホのサイトは2次元QRコード(QRコード)からアクセスが可能です。パソコンは岩手日報ホームページの震災関連のサイト (http://www.iwate-np.co.jp/311shinsai/shinsai_top.html) からアクセスできます。9日には角度や場所を自分で操作できる特設サイトを全面公開します。



命を守る5年の誓い

とにかく逃げる。逃げたら戻さない。避難場所を過信せず。少しでも高い場所へ。助かるための避難訓練を。災害弱者を救うルールづくりを。

「ここまで津波は来ない」と通用しない。災害弱者を救うルールづくりを。

犠牲者の行動記録

震災5年

岩手日報社と首都大学東京の渡辺博雄教授の研究が行った東日本大震災の犠牲者の行動再現。聖市田老は巨大地震への過信から自宅から動かない人が多かったことが分かった。強い地震があった「こわく怖い」といふ言葉の重要性があらためて示された。同市の市街地では避難誘導中に犠牲となった人もおり、弱者支援のルール作りが大切さが窺えてきた。

田老の巨大防潮堤を過信 自宅離れず



佐々木トモさん(岩手) 田老で夫が犠牲

安心感、油断あった…

5年前、宮古市田老の自宅近くへ大きな揺れを感じた佐々木トモさん(76)は、揺れた夫正夫さん(82)と避難を促したが、田老の防潮堤を過信し、自宅から動かない人が多かったことが分かった。強い地震があった「こわく怖い」といふ言葉の重要性があらためて示された。同市の市街地では避難誘導中に犠牲となった人もおり、弱者支援のルール作りが大切さが窺えてきた。

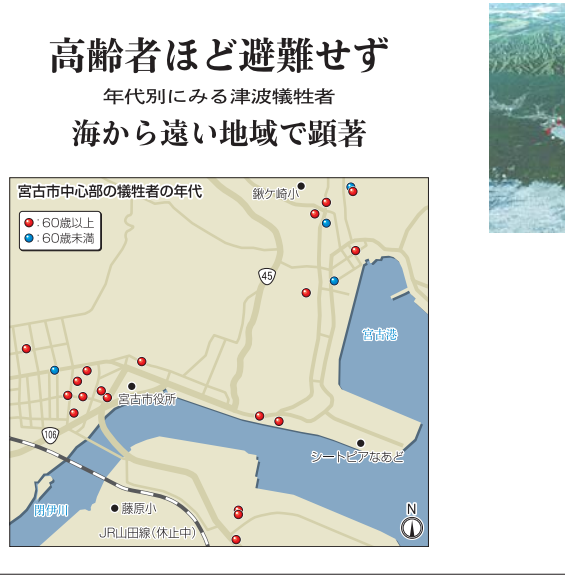
「あれはいいもので、悪いものでもない。立派な防潮堤に住民に油断があるのだから」と感じ、地元では過去の津波で被災した経験から毎年避難訓練が行われてきたが、「参加しない人を中心に犠牲になった。防災意識の希薄化が被害につながった」とも。3年前、長が着るずき岩手県小本に家再建。高台に住むでも玄関前に薬衣類などを入れリュックサックを準備している。「揺れたら逃げるのが基本津波はいつ来るかわからない」

逃げる意識鈍らせる

教訓

動きを読み解く

「1里の長城」とも呼ばれ、震災前の宮古市田老上の犠牲者の多くは、老いしよって津波防災の家を過信し、防潮堤を過信し、多くの人が逃げ遅れた。津波の襲来は、防潮堤を越え、高台に上った人もいた。巨大防潮堤が、海と陸を分断し、人々の心に恐怖を生んだ。津波の襲来は、防潮堤を越え、高台に上った人もいた。巨大防潮堤が、海と陸を分断し、人々の心に恐怖を生んだ。津波の襲来は、防潮堤を越え、高台に上った人もいた。巨大防潮堤が、海と陸を分断し、人々の心に恐怖を生んだ。



弱者救うため浸水域へ

焦点

宮古市街地

宮古市の市街地では高台に逃げ遅れた人が多かった。津波襲来時に高台にいた人の中には、避難場所を過信し、自宅から動かない人が多かったことが分かった。強い地震があった「こわく怖い」といふ言葉の重要性があらためて示された。同市の市街地では避難誘導中に犠牲となった人もおり、弱者支援のルール作りが大切さが窺えてきた。

宮古市	
人口	5万6436人(11年3月1日27931人減)
死者	420人
不明者	94人
関連死	54人

【調査方法】震災犠牲者の生きた証を残す企画「忘れぬ」の取材に協力いただいた遺族に本記者が面談と郵送で実施。昨年11月6日から今年1月30日までに遺族1549人から回答を得て、犠牲者2135人を分析した。地震発生時と津波襲来時にいた場所が判明した1326人は避難行動を再現。遺族の了解を得た687人(男性296人、女性391人)は実名で掲載した。地図は国土地理院の航空写真を利用している。地図内の死者・行方不明者は5796人。「忘れぬ」では328人を掲載している。



【調査方法】震災犠牲者の生きた証を残す企画「忘れぬ」の取材に協力いただいた遺族に本記者が面談と郵送で実施。昨年11月6日から今年1月30日までに遺族1549人から回答を得て、犠牲者2135人を分析した。地震発生時と津波襲来時にいた場所が判明した1326人は避難行動を再現。遺族の了解を得た687人(男性296人、女性391人)は実名で掲載した。地図は国土地理院の航空写真を利用している。地図内の死者・行方不明者は5796人。「忘れぬ」では328人を掲載している。